



平成 22 年 1 月 29 日

各 位

会 社 名 富士フイルムホールディングス株式会社
代 表 者 の
役 職 氏 名 代表取締役社長 古 森 重 隆
(コード番号: 4901 東証第一部・大証第一部・名証第一部)
問 合 せ 先
責 任 者 経営企画部 IR 室長 吉 沢 勝
電 話 番 号 03 (6271) 1111

平成 22 年 3 月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 21 年 10 月 30 日に公表した平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期 通期連結業績予想値の修正（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

<米国会計基準>

(単位: 百万円)

	売上高	構造改革費用 前営業利益	営業利益	税金等調整前 当期純利益	当社株主帰属 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 21 年 10 月 30 日発表)	2,300,000	55,000	△90,000	△93,000	△60,000
今回修正予想(B)	2,170,000	80,000	△65,000	△68,000	△52,000
増減額(B-A)	△130,000	25,000	25,000	25,000	8,000
増減率 (%)	△5.7	45.5	—	—	—
(ご参考) 前期実績	2,434,344	70,769	37,286	9,442	10,524

営業利益は、構造改革費用 145,000 百万円を計上後の営業利益です。

2. 修正の理由

事業を取り巻く環境は依然として厳しく、先行きは不透明な状況が続いております。当社の主要事業におきましても、景気後退に伴い減少した需要の回復が遅れており、売上は計画を下回って推移しています。一方で、損益に関しましては、競争力の強い商品の拡販を推進したことや、グループ全体・全事業において、構造改革を断行し、徹底したコストダウン・経費削減を推進したことにより、想定を上回るペースで利益の改善が進みました。

これらの状況を踏まえた上、第 4 四半期の見通しを加味し、売上高に関しましては、通期の業績予想を下方修正し、利益に関しましては上方修正を行いました。

注) 本資料に記載されている予想値は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の実績は、様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

以 上